

「市民コメントに寄せられた意見及び市の考え(回答)」

(1)意見募集期間:令和4年11月1日から11月30日

(2)意見提出者:30人(法人2件、団体1件含む)

(3)ご意見・ご提案と市の考え

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
1	計画	現在、北坂戸駅周辺の商業施設スーパー・飲食店・パチンコ店・ゲームセンター等が撤退しており、団地も老朽化している一方で新しい高層マンション建設が無いのも現状ですが若い世代を取り込むには、魅力有る居住エリア、商業エリアの創造が必要だと思いましたが、何か具体策はありますか？	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 新たに整備する多世代交流拠点には、地域交流センター等の複合型公共施設と民間商業施設等を一体的に整備する計画であり、地域にとって魅力ある拠点づくりを進めてまいりたいと考えています。 ご意見の居住誘導や居住エリアの整備については、UR 都市機構とのまちづくりに関する連携協定に基づき、北坂戸地区再生について協議調整を進めています。魅力ある居住エリア創造に向け、引き続きUR都市機構等と連携しながら多様な施策を講じられるよう取り組んでまいります。
2	計画	北坂戸駅から高麗川さくら堤までの遊歩道は大規模に魅力有るものにする必要が有ると思いますが、アーケード街・イチョウ並木・歩道橋の整備・高麗川堤の整備等の計画予定はありますか？	本計画案では、北坂戸駅から高麗川ふるさと遊歩道までを賑わい軸として位置づけ、誰もが歩きたくするような回遊ネットワークを形成したいと考えています。具体的な整備計画は市道拡幅事業の詳細設計において検討してまいります。
3	賑わい軸の整備	UR都市機構との連携により道路拡幅・右折帯の設置は具体的にどの様に計画し、若い世代の居住誘導に働きかけますか？	旧北坂戸小学校北側の市道拡幅事業は、回遊ネットワークを形成するための歩道空間確保とともに、朝夕の交通渋滞解消に向けた右折帯設置を主としています。この拡幅用地については、UR団地の敷地の一部を提供いただくことで確保したいと考えており、今後、UR都市機構と詳細協議を進めてまいります。 交通の利便性を高めることで、若い世代を含む多世代の居住誘導に寄与するよう取り組んでまいります。
4	多世代交流拠点	溝端公園を活用した場合の民間事業者は、どのような企画提案を出して来ていますか？	令和元年度に行ったサウンディング型市場調査では、すべての事業者から溝端公園用地を活用する提案をいただきました。詳細は坂戸市ホームページに掲載してありますが、大別すると、①多世代交流拠点+賑わい広場とする案、②多世代交流拠点+定住促進施設+賑わい広場とする案、③多世代交流拠点+賑わい広場+公園とする案となっています。
5	溝端公園用地	用途地域は主に「第二種高層住居専用地域」と有りますが、具体的に公園内はどのような線引きになっていますか？	溝端公園の現行用途地域は、北坂戸駅から高麗川にかけての市道境界から25m区間が第一種住居地域、交差する都市計画道路境界から25m区間が第二種住居地域であり、それ以外の用地の大半が第二種中高層住居専用地域となっています。
6	溝端公園用地	現在の用途地域の制限を超えた規模の事業展開と有りますが、具体的にどの様な規模ですか？また、その中で商業地域の占める割合はどの程度ですか？	本計画案では立地誘導する商業施設の床面積は 10,000 m ² を上限とし、これに見合う土地利用が可能となるよう、今後、都市計画変更等の手続きを進めてまいります。 また、具体的な店舗規模等については、今後、民間事業者から事業提案を公募し北坂戸地区に最もふさわしい提案を選考のうえ決定したいと考えていますので、現段階では未定です。
7	新公園の整備	旧北坂戸小学校用地を活用した新たな都市公園の整備について、体育館・校舎・プールの解体後の広場(公園)は、先ほどの方針2の回遊ネットワークの関連からどのような楽しい公園を予定していますか？	旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園は、防災、学習などの機能を有する地域に開かれた公園として整備し、高麗川遊歩道とのネットワーク回遊路を利用する方にとっても安らぎの場となる公園づくりを進めてまいります。
8	計画	今回の「北坂戸地区まち・くらし再生」は、北坂戸西口側が中心で有りますが、東側についても早急に同様の再生事業が必要で有ると思いますが、予定はありますか？	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点は、地域交流センター等の複合型公共施設と民間商業施設等を集約したいと考えています。この拠点整備は北坂戸駅の西口が中心となりますが、複合型公共施設の機能については東口地区の既存公共施設と機能分担をするなど、地区全体を見すえた機能を持った施設を配置してまいります。
9	多世代交流拠点	溝端公園跡地利用計画(案) 建物は高層階とする。 ・公共施設としての機能充実 ●低階層 幼児施設、デイサービス施設 ●中階層 出張所、企業家支援専用ルーム ●高階層 若者世代向け住宅 5~10階(子育て支援家賃設定) ・健康施設と娯楽施設 ●フィットネス施設(カーブス+ライザップ誘致) ●健康センターお風呂(他地区からも客が来られる施設) ・お祭り広場として活用可の広場 ●最初から水道/電気/ガス設備あり	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 溝端公園用地は、地域交流センター等の複合型公共施設と民間商業施設等を誘致し、暮らしに必要な諸機能を備えた多世代交流拠点として整備する予定であり、住宅建設等の居住誘導は想定していませんので、ご理解をいただきたいと存じます なお、民間施設については、今後、民間事業者から事業提案を公募し、北坂戸地区に最もふさわしい提案を選考のうえ決定したいと考えていますので、施設の詳細は現段階では未定です。

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
10	旧北坂戸小学校用地の活用	北坂戸小学校跡地利用計画(案) 公園だけではなく、建物建築 ・建物は中階層 ●公園だけではなく、老人ホーム 3階4階(坂戸市運営の老人ホーム) ●一階は公民館利用 ●教育センターは2階 ●5階はスポーツ施設利用	旧北坂戸小学校用地は、多世代交流拠点として活用する溝端公園に代わる都市公園として整備する予定です。 この用地は低層住宅地を前提とする用途地域内にあるため、例外許可制度によって建築した学校施設を別用途施設として活用する場合には、高さ制限等の関係法令基準に適合させる必要があり、その範囲は極めて限定的なものとなります。 このため、本計画ではこれら法令等が許容する施設として、一部校舎を防災備蓄倉庫を兼ねた地区集会所として活用することで、地域防災機能を備えた市民の憩いの場となる公園として整備する計画としました。
11	防 災	溝端公園への施設及び旧北坂戸小学校への施設内に避難所確保 ●建物施設内が避難場所として活用出来る様設計時に留意する(公園、駐車場は炊き出しベンチ)	溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の公共施設には、これまで北坂戸公民館が担ってきた地域防災拠点の機能も移転する予定であり、災害時の情報収集活動の拠点などとして機能するものと考えています。 また、今後は事業提案を公募し、選考決定する民間事業者との協議を通して、災害時の協力対応について要請をしてみたいと考えています。 また、旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園には、防災備品の備蓄倉庫等を備えることで、防災機能を併せ持つ特色ある公園として整備してみたいと考えています。なお、地区集会所兼防災備蓄倉庫として活用を予定している3階建て旧校舎については、「水害時の一時的な避難所」としても活用できるよう検討してみたいです。
12	交 通	市道 3841 号と市道 3411 号の交差点に右折帯を設けることは賛成。しかしながら、校庭のシンボルであった桜の木を伐採する必要がある計画であり、極力残すか、新しく植えるなどの工夫をしてほしい。出来ないのであれば、右折帯を利用する車はそれほど多くないため、現道のままでも良いと考える。(市道 3411 号線はゾーン 30 指定なので、車を誘導する施策には違和感がある。)URから土地を取得するのであれば、同時施工として、市道 3841 号と市道 4021 号(中村上吉田線)の交差点(溝端公園)の 3841 号の右折帯(通行帯)を拡幅すべきである。中村上吉田線(高坂橋)方向から、3841 号の北坂戸橋方面に大型車(コンテナ積載)が窮屈そうに曲がるのを何度も目撃しており、旧北坂戸小学校前よりも危険性が高い。	旧北坂戸小学校校北側の交差点は、入西方面からの車両で朝夕において交通渋滞が発生しており、地域課題のひとつと認識しています。本計画では健康歩道整備とともに、本交差点に右折帯を設置することで課題解消を図ってまいります。ご意見の桜の扱いについては、今後、公園施設配置計画等の詳細設計段階で検討してみたいです。 また、右折帯拡幅箇所の検討については、より有効な整備ができるよう今後、UR都市機構と用地確保に向け協議を進めてまいります。
13	旧北坂戸小学校用地	2019年の台風時にこの校舎が有効的に利用されたこともあり、活用を図ることは非常に良いと思う。 地域にお住まいの方が安心して「一時避難」ができるキャパシティを計算し撤去する建物を決定してほしい。2019年台風時は、北坂戸小学校の①4階建て校舎の3/4階(A棟)、および北坂戸公民館を活用しています。そこからすると4階建てを残すほうが適当とも考える。 また、利活用という点では、体育館を潰してしまうのはもったいないと考えます。子供たち、地域住民のために残し、公民館にある体育館を撤去した方が、小学校に通っていた住民の思い出という点においても良いのではないかと。	旧北坂戸小学校用地は、低層住宅を前提とする用途地域に指定されており、法令により建物の高さや用途に制限があります。旧4階校舎は、特例許可(高さ10m超)により建築されたものです。 また、都市公園として整備する計画のため、公園内に設置できる施設や建物の建ぺい率等について、都市公園法による制限があります。 このように、旧北坂戸小学校用地を活用した都市公園の整備に際しては、関係法令で許容される範囲で旧校舎の活用等を含めた計画とする必要がありました。その結果、3階建て旧校舎のみを活用し、他は解体撤去する計画としました。 なお、地区集会所兼防災備蓄倉庫として活用を予定している3階建て旧校舎については、「水害時の一時的な避難所」としても活用できるよう検討してみたいです。
14	新公園の整備	公園の具体的なイメージが無いがどのような施設を想定しているのか。現・溝端公園の様な、少年野球等が出来るような施設になるのかイメージを示してほしい。また、北坂戸小学校の跡地であることを明示するものを設置してほしい。	旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園は、防災、学習などの機能を併せ持った市民の憩いの場となる公園整備を進めてまいります。具体的な整備内容は今後詳細検討をしてみたいですが、多世代の市民が自由に利用できる公園とするため、野球、テニス等の球技等の専用施設は設けない方針としています。また、北坂戸小学校があったことを明示するものの設置については、公園整備計画に着手する段階で検討してみたいです。
15	歴 史 民 俗 資 料 館	勝呂地区にある歴史民俗資料館の移転を示唆する内容になっているが、どの様な内容を想定しているのか。現・公民館の体育館を資料館として活用するには違和感がある。	本計画案では、旧北坂戸小学校用地に隣接する北坂戸公民館用地も新たな都市公園区域に含める計画としていることから、多世代交流拠点の公共施設に移転する現北坂戸公民館の施設活用について検討をいたしました。 都市公園法によって公園内に設置可能な施設が規定されており、この規定の中に体験学習施設があり、歴史資料館もこれに含まれることから、多くの文化的資料を有する歴史民俗資料館を移転することで、公園の中に郷土学習につながる機能を併設したいと考えています。 施設の具体的な活用方法等については今後市教育委員会と協議してみたいです。
16	そ の 他	教育センターはいつ頃の移転を想定しているのか。将来移転後の姿をイメージした公園にするのか	現教育センターは、施設の利用、機能等から学校の一部として存続していましたが、旧校舎解体後には単独建物となり、都市公園法等の法令基準の適用を受け、都市公園用地の中に立地することができない施設となります。このため、本計画案では移転施設として位置づけ、移転先を検討することといたしました。 現状では移転時期は明確になっていませんが、新たな都市公園については、教育センター移転後の全体像をイメージして整備計画を検討してみたいです。
17	多 世 代 交 流 拠 点	交流センター(公民館)を溝端公園に設置する案については賛成 旧埼玉りそな銀行の市役所出張所と公民館機能、集会施設、防災倉庫等を備えた施設になることを期待する。 旧埼玉りそな銀行跡の出張所が移転するならば、その後の跡地活用もしっかり考えてほしい。	多世代交流拠点の公共施設は、現北坂戸公民館と北坂戸出張所の機能を備えた複合型公共施設を想定しています。 現北坂戸出張所は借用施設であるため、移転後の活用については建物所有者に検討を依頼する予定です。

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
18	多世代交流拠点	まずは早期の建設を望む。ますます寂れてしまう前にどうにかならないか。令和8年では遅すぎる。後述するが、東武ストア跡地の活用を急ぎ、賑わい施設と連携した準商業集積地となしてほしい。 建物の規模は、ワカパウオーク以上(希望はピオニウオーク)は必要である。これは、坂戸市の大規模小売店舗の最大は、コモディイダ/綿半の 5,227 平方メートルであり、近隣市町村と比較しても大規模小売店舗が無い状況にある。大規模小売店舗が無いということは、国道 16 号より外側の郊外地域においては「人の呼べる、魅力ある地域」となっていないのが現状である。せめて 15,000 平方メートル程度のキャパシティをもった施設が望ましい。その場合には、商業地域への編入(用途地域の変更)を対応していく必要があると考えます。 なお、イオンタウン毛呂山は賃貸面積 10,908 平方メートルであり、溝端公園の面積から参考になる施設になるとみている。提案ではあるが、確保が難しいようなら、東武ストア跡地&URの 1-4 地区のにぎわいサロンが入っている 2 階建て店舗・および西側駐車場を建て替え目的に取得し、北坂戸駅から民間施設にかけての一体型商業施設としても良いのではないかと。近隣住民のための施設だけでなく、坂戸市の魅力ある呼び込み施設として充実を図ってもらいたい。坂戸市内には産直が目立っていないので、東松山の「いなほてらす」の様な内容も取り込んでほしい。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 計画では、溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の民間施設は、周辺市にあるような人を呼び込む大規模商業施設ではなく、地区の暮らしに必要な機能を集約することで、多世代市民の利便性を高める民間施設を誘致し、将来に渡る持続可能な都市経営を図ることを考えています。 この誘致にあたっては、複合型公共施設との連携もふまえた事業提案を公募し、多世代交流拠点として最もふさわしい提案を選考した上で事業者を決定する予定であり、今後、公募に向けて想定規模の施設建築が可能となるよう用途地域変更等の都市計画手続きを進めてまいります。
19	その他	この整備方針には、途中まで検討されていた東武ストア跡地の問題を棚上げにしているのが気になる。北坂戸駅から見た時に駅西口地区の入口は東武ストア跡地であり、その利活用を含めて調和の取れた「人の呼べる」民間施設になってほしい。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。
20	その他	賑わい施設の手段として、東武との協議になるが、駅と一体化した商業施設等も検討すべきではないか。近年だと、グランエミオ所沢が好事例かと思う。北坂戸駅のみならず、これは坂戸駅においても取り組みが必要な案件と思う。	計画の中に駅と一体化した東武ストア跡地の活用計画を位置づけるためには、東武鉄道株等との協議調整、合意形成が必要不可欠であり、財政負担等の課題を含めるとさらに長期間を要することが見込まれます。本市では少子高齢社会が急速に進行する北坂戸地区のまちづくりに早急に着手する必要があると考え、今回、市有地を活用したまちづくり計画を作成しました。 ご意見については、東武鉄道株との協議を継続しながら、次段階のまちづくり課題として位置づけてまいります。
21	その他	UR北坂戸の老朽化が著しい。5 階建の住戸についてはエレベーターも実験的な設置にとどまり魅力的とは言い難い。一部建物から建て替えを図るべき。 対象:12-1、12-2、12-3、12-4、11-1、11-2、11-3、11-4 の市道 3841 号沿い 建て替え後、一部は住宅に加えて商業・複合施設等への活用が望ましい。この意図は、市道 3841 号が、「駅に行くための道」だけの活用にとどまっており、通行量が望めるのに、「人がとどまる施設」がないために地区外に人が逃げてしまっているからである。 コンパクトシティを目指すならば、「人がとどまる施設」としてURとの連帯が必要で、市道 3841 号沿いの再開発を、現・溝端公園の開発と合わせて取り組むべきである。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 北坂戸団地のストック再生等については、UR都市機構とのまちづくり連携協議において、多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちの実現を目指して検討しているとうかがっています。ご意見については、引き続きUR都市機構と連携しながら北坂戸地区の再生に向け協議調整をしてまいります。
22	その他	まるひろ百貨店閉店後、東口のスーパーマーケット相当の施設が無くなってしまった。早急に対策を図るべきである。	ご意見のとおり、全体的に北坂戸地区の賑わいは消失傾向にあると受け止めています。 今回の北坂戸地区まち・くらし再生事業は、地区全体を対象として市民生活の利便性を高めることを目的としています。本計画案に基づき、民間活力導入手法を取入れながら生活に必要な機能を備えた地区拠点を整備してまいりたいと考えています。
23	溝端公園用地	溝端公園のテニスコートで長年毎週テニスを楽しんでいます。クレイコート(土)で雨の影響や、乾燥でホコリの影響もありますが、自分たちで維持管理を奉仕でやりながら、貴重な健康維持に役立っています。運動公園のテニスコートでも毎週テニスをしています。オムニコートで雨が降らなければ安心してテニスが出来ます。しかし利用者が多いので予約を取るのが大変です。夜の 12 時に予約を取る方法は、異常ではないでしょうか。※坂戸市で管理しているテニスコートの絶対数が少なすぎます。北坂戸小学校跡地に、ぜひともテニスコートを存続させていただきたいと熱望します。 テニスは若者から熟年者まで幅広い年齢層で、健康維持・運動の楽しさを味わうことができる素晴らしいスポーツです。数少ない貴重なテニスコートを無くすような再生事業は、再生ではなく衰退事業です。ぜひともテニスコートを存続させていただきたいと熱望します。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 旧北坂戸小学校用地は、多世代交流拠点となる溝端公園に代わる都市公園として整備する計画であり、防災、学習などの機能を備えた市民の憩いの広場として、多くの皆様が自由に利用できる空間を確保したいと考えています。 このため、スポーツ専用施設は設置しない方針でありますので、溝端公園の廃止後においては、市民総合運動公園等をご利用頂きますようご理解をいただきたいと存じます。
24	計画	11 月 7 日の説明会では高齢者ばかりでした。公民館を利用するのも高齢者が多いですね。説明会の案内も、広報での呼びかけも若い人の目には入ってこない。このままではせっかくの施設もやがては廃るのではと心配です。市からの新しい町づくりの提案に対する若者の意見が聞けない説明会のあり方そのものに対する対策が不足している気がしました。若い子育て世代の方々が目を輝かせて将来に期待できるやり方はないのでしょうか。 提案したいのは高校を卒業すると都会に目を向けてしまうので、成人式などの案内に新町づくりの希望を募集していることを記載して、式典の時に意見を投入できる箱を用意してはいかがでしょうか。若い人の名簿をつかんでいるのは行政だけですから。 →No.24(コメ主が思う課題)に対しての提案であることから、コメントをまとめる。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 この計画案周知については、市広報やホームページ掲出、地区回覧や地区説明会、市民コメント等を通して広く周知しています。 また、若い世代から意見を聴取する取組みについては、令和5年北坂戸地区二十歳のつどいの会場において、意見募集のためにパネル展示とチラシ配布を行いました。 今後も、周辺大学等との連携を含め、若い世代の意見把握等に取り組んでまいります。
25	溝端公園用地	公園内の樹木は全部残してほしいです。椿やキンモクセイなど、花の咲く木は季節を感じられる大切な木です。 駐車場よりも木を大切にお願いします。	溝端公園を活用する多世代交流拠点の整備にあたっては、今後、民間事業者から事業提案を公募する予定であり、提案要素として既存樹木の活用を求めてまいりたいと考えています。緑を活かした多世代交流拠点整備が進むよう取り組んでまいります。
26	溝端公園用地	溝端公園についてはこのまま公園の機能を残しつつ、イベント広場としての機能を持たして様々なイベントが行えるような公園にしてほしい。そうすれば地域の活性化につながりお店も増えていききっかけ作りになると思う。運動公園の機能は石井の運動公園の整備でなんとかならないかと思う。	溝端公園が北坂戸地区のほぼ中央に位置する公共用地であることから、暮らしに必要な機能を集約する多世代交流拠点として活用することを計画しました。また、これに代わる公園は旧北坂戸小学校用地を活用して整備することとし、イベント広場等の機能を備えた地域に開かれた特色ある公園として整備してまいりたいと考えています。

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
27	旧北坂戸小学校用地	ここ(旧北坂戸小学校用地)に大きな商業施設を呼んで元気ある地域づくりの足がかりになるような誘致をしてほしい(イオン系熱烈希望)。また北坂戸駅周辺にはおいしい飲食店があるので、その店をしっかりと応援できるような環境整備をしてほしい。(地域電子マネーや共通割引券) 近隣の東松山、桶川、上尾にはショッピングモールがありまさかの毛呂山にはイオン。鶴ヶ島にもカインズ、バイシア等の大きめのお店がある。若葉ウォークがあって十分と感じているかもしれないが、やはりイオン系のショッピングモールは是非とも住民としてはほしいところ。 また地域の小さな飲食店の応援もできれば、北坂戸地域は暗い雰囲気脱却できると思う。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 計画では、溝端公園は生活に必要な機能を集約する多世代交流拠点として活用し、旧北坂戸小学校用地はこれに代わる都市公園として活用することとしました。 ご意見の旧北坂戸小学校用地の施設誘致については、低層住宅地に適用される用途地域内にあり、法令上商業施設等の建築ができないこと、さらに周辺の良好な住宅地環境を保全する必要があること等を総合的に検討し、地域に開かれた公園として活用することとしました。 また、北坂戸駅周辺の事業者支援については、まち・くらし再生事業との連携の必要性等をふまえて検討してまいります。
28	民間施設	坂戸市には、大型ホームセンターがなく、他市のホームセンターに買物に行っています。又近々車を手放す予定、高齢になるので遠くまでいけなくなるので、他の方も困っているのでは？是非、大型ホームセンター、大型商業施設誘致願います。 約2年位前、本庁受付横の目安箱に投書した者です。(ホームセンター誘致の)当事の担当の方は、今後そう言った事案が発生した場合検討すると言っていましたので是非検討を。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点は、暮らしに必要な民間商業施設と公共施設を配置する計画であり、ご意見の民間施設業種等については、今後、民間事業者から事業提案を公募し、北坂戸地区に最もふさわしい提案を選考したいと考えていますので、立地施設の詳細は現段階では未定です。
29	新公園の整備	公園への入り口を複数設けてほしい。	旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園は、防災、学習機能を備えた地域に開かれた市民の憩いの場となる公園として整備することとしています。ご提案をいただいたご意見もふまえ、今後、具体的な整備計画を検討してまいります。 また、運動施設の機能については、溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の公共施設に、現在の北坂戸公民館の機能を備えた複合型公共施設を設置する予定であり、屋内軽体育ができる施設となるよう、今後、詳細計画を検討してまいります。 本計画案に基づく事業実施により、北坂戸地区で暮らす全ての方々が暮らしやすいまちになったと感じていただけるよう引き続きまちづくりに取り組んでまいります。
30	新公園の整備	芝生広場を広くし、多世代がくつろげるような公園にしてほしい。	
31	新公園の整備	ミニドッグランも設けて犬も遊べる公園にしてほしい。	
32	新公園の整備	駐車場も一定程度設けてほしい。	
33	公共施設	バドミントンができるような運動施設としての機能を持たせてほしい。	
34	公共施設	拠点施設内の機能についてバドミントンが2面できるような運動施設としての機能を持たせてほしい。 私たちのクラブはシニアが主体です。車も乗れない人もいて、近くの公民館の講堂だから、クラブ活動ができています。もし、整備される拠点施設でバドミントンができないということになれば、廃部となってしまいます。どうか身近で気軽に運動ができるよう、配慮していただきたくお願い申し上げます。	溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の公共施設は、現在の北坂戸公民館の機能を備えた複合型公共施設を設置する予定であり、屋内軽体育ができる施設となるよう、今後、詳細計画を検討してまいります。
35	計画	北坂戸地区のまちづくりのコンセプト「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」とは、つまり、①若者を呼び込んで高齢化率を下げ、②コンパクトシティ化を進めることが方針と理解しました。先日の市役所職員の説明会では、URや東武ストア跡地の協力が得られない中で、坂戸市だけが先行してこの計画を推進する以上は、団地の50%~70%の高齢化率を下げることは厳しいという話がありました。したがって①の目標は未達となります。わたしは、地方を中心に人口減少が起きている現在、若者を呼び込むのは不可能であり、撤退戦をどうするかに注力すべきだと考えているので、①は諦めてしかるべきだと思います。そのため、今回のプロジェクトでは、若者世代を呼び込むというより、むしろ②のコンパクトシティ化を念頭に置いていると感じました。しかし、先立っての説明会ではコンパクトシティ化の説明はなく、ほとんど溝端公園と旧北小をどう変えていくのかだけの具体的説明に終始していた気がします。それが残念な点です。 コンパクトシティ化で一番重要なことは、建物を建てることではなく、住民や周辺地域の理解とともに進めていくことだと思います。北坂戸地区は特に団地、URと一緒に動かないことには、溝端公園に何を建てても賑わいの中心を作ることはできないと感じます。 このプロジェクトを進めるための条件としては以下のことが必要だと考えています。 条件1:URと一緒にプロジェクトを推進すること(坂戸市だけで進めない)~最低でも拠点施設の近辺に引越してできる環境が必要 条件2:コンパクトシティの考え方を市民全体で共有して進めること~将来、域内に住むメリット、域外に住むデメリットを住民が共有しているか。 条件3:コンパクトシティ化に必要な行政サービスや民間施設、医療・福祉施設を集中して拠点設備に置くこと(子育て世代の呼び込みとコンパクトシティの両方をいいとこ取りしようと思わないこと)、バスなどの公共路線も含めて拠点施設を考えられているか？ 坂戸市の予算がひっ迫していて、今すぐ動かなければならぬならまだしも、一般会計が黒字であるならば、もう少し時間をかけて、住民への説明やURや東武鉄道との連携を進めて、一緒に開発を進めることが第一義ではないでしょうか。 予算の15億円というのは大した金額ではありませんが、いったん建ててしまうと、溝端公園や旧北小を他の用途に使うことは出来なくなってしまいます。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 まち・くらし再生の検討においては、UR 都市機構とのまちづくりに関する連携協定に基づき、UR都市機構と北坂戸地区の再生について協議調整を進めています。本計画案は、この協議を通して市有地を活用した多世代交流拠点等の先行整備が必要と判断した上で策定していますので、引き続きUR都市機構等と連携しながら、その後のまちづくりに向け多様な施策を講じてまいりたいと考えています。

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
36	その他	今回の再開発は生きる希望・チャンスを与えてくれるもので嬉しい限りです。 今までの経験を続けたい人、新しい自分を発見したい人、誰かの役に立ちたい人、語らいの場が欲しい人、様々だと思いますが、「やってみないと分からない」事が多く、それには船旅で経験した名乗ることもせず、オープンで誰でもが即参加できる場が「気楽」であり、「未知の世界」を簡単に体験できた場でした。初心者向けの講習を沢山企画して貰えたら、と思います。マットやストレッチグッズを備え低料金で利用できたり、ウォーキングコースもあれば嬉しいです。また、カードを発行すればチャージ・決済が楽ですし、スマホ時代なのでペーパーレスに対応できる人も多いと思います。事務手続きを簡略化し、その分市民と会話できる人材を派遣して欲しいと思います。期待し、待ち望んでいます。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 本事業を実施するためには市民皆様のご理解とご協力が不可欠でありますので、引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。
37	溝端公園用地	先日集会場で説明を聞きました。新しい場所にはテニスコートが、ないと聞き困りました。 新しく作るのにお金が掛かる事です。なぜコートを壊すのですか？ 毎週コートを使っている人たちはとても困っています。その一人です。 なぜ使える物を壊すのですか。考えてください。テニスをしている仲間からも皆同じ考えです。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 旧北坂戸小学校用地は、多世代交流拠点となる溝端公園に代わる都市公園として整備する計画であり、防災、学習などの機能を備えた市民の憩いの広場として、多くの皆様が自由に利用できる空間を確保したいと考えています。 このため、スポーツ専用施設は設置しない方針でありますので、溝端公園の廃止後においては、市民総合運動公園等をご利用頂きますようご理解をいただきたいと存じます。
38	今後の進め方	・溝端公園と旧北坂戸小の入れ替えについて 溝端公園は、長きにわたり北坂戸地域住民の憩いの場であり、防災拠点としての役割を果たしてきた。よって当計画遂行に当たっては、当地域住民の意見を充分聞き合意形成を図られたい。また、当計画実施による既存住宅に対する影響を極力避け、周辺の交通安全対策を図られたい。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 溝端公園の防災機能は、旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園に継承する予定であり、溝端公園用地を活用する多世代交流拠点の防災機能の確保についても今後検討を進めてまいります。また、この整備にあたっては、周辺住宅地への環境配慮、交通安全対策等について十分配慮してまいります。
39	その他	・現存する団地建替えについて 若い世代の入居を期待し、「立て替えては」との意見もあるようだが、現在入居している方々の死活的問題でもあり、居住権にも係る問題であるので慎重に対応されたい。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 北坂戸団地のストック再生等については、UR都市機構とのまちづくり連携協議において、多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちの実現を目指して検討しているとうかがっています。ご意見については、引き続きUR都市機構と連携しながら北坂戸地区の再生に向けて協議調整してまいります。
40	歴史民俗資料館	今回の計画で、歴史民俗資料館を旧北坂戸小跡地内の北坂戸公民館に移設されることに賛成であり評価する。(更に駅近くに設置はできないか要検討) 移設に伴い、現在の歴史民俗資料館は、本市にとり貴重な建物であり保存されたい。	多くの文化的資料を保有する歴史民俗資料館を現北坂戸公民館に移転することで、市民学習機能を備えた新たな公園づくりを進める計画としています。移転後の現歴史民俗資料館の建物の扱いについては、今後、市教育委員会と協議してまいりますので、ご理解をいただきたいと存じます。
41	今後の進め方	本計画は、「若い世代の定住を促進する」とあり、「公的不動産」(溝端公園と旧北坂戸小学校用地)を活用し「にぎわいのあるまちづくり」としてしています。とすれば、私は、「若者がつどうまち」を視野に入れるべきと考えます。つまり、坂戸市周辺には多くの大学があり坂戸高校もある。これらは、本市にとって貴重な財産と考えます。よって、これら若者(学生)に北坂戸を注視してもらい「にぎわい」を創出すべきではと思います。そのためにも、更に、「ペDESTリアンデッキ」「オルモ」「児童センター」を視野に入れての計画が必要であると考えます。(以前「丸広」とタイアップできないかとも思っていた)・「坂戸児童センター」活用:今年度は、演奏ボランティアの皆さんによる約 30 分の音楽会を楽しんでもらった後に、天体望遠鏡で星空を観望する「星空音楽会」を毎月行っています。大学、高校生には「天体」に興味を持つ学生が多いと思います。当センターはプラネタリウムを備え、メガスターで有名な「大平技研」と契約しており、子供たちと学生との輪を広げた事業は話題性もあると考えます。・「ペDESTリアンデッキ」の活用:あの空間を有効に活用すべきです。昼は若者のイベント等活用方法を検討。夜は星空を観察する(現在も行っている)等々。・「オルモ」活用:芦山地域の防災拠点としての検討をされたい。	「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」達成のためには、若い方を含む多世代の意見を集約し、まち・くらし再生を推進していくことが必要と考えています。 溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の複合型公共施設については、北坂戸地区内に設置した坂戸児童センターや文化施設オルモとの連携が必要と考えており、これら既存施設との機能・役割分担等を検討してまいります。
42	多世代交流拠点	・溝端公園内に計画される施設に、「200人規模の楽屋を備えた小ホール」の設置と、歴史資料館の設置を検討されたい。	溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の公共施設は、地域交流センター機能を備えた複合型公共施設を設置する計画であり、現状では多目的ホールを備えた施設を想定しています。具体的な施設計画については今後さらに検討を進めてまいります。 歴史資料館は、現北坂戸公民館用地と旧北坂戸小学校用地を合わせた都市公園の中に歴史民俗資料館を移転する計画であるため、この複合型公共施設への配置は想定していません。
43	その他	坂戸駅止まりの学生を北坂戸駅まで誘導する施策を(快速の停車も必須では)	北坂戸地区まち・くらし再生事業基本計画を進める際の要望事項ではなく、全市的必要性を勘案した上で行う要望であると認識しており、今後、事業の進捗に併せて検討を行ってまいります。
44	新公園の整備	高齢者向けの健康器具ばかりの公園ではなく、子供が楽しめる遊具が欲しい。 上記の遊具は、近隣の小さな公園にあるような遊具ではなく、子供が惹きつけられるような、アスレチックの要素を含んでいる複合遊具が良い。(例:東松山のぼたん園、川島町の平成の森公園、川越のピコア、狭山市の入間川にこここテラスなど。また、複合遊具ではなくても、狭山市の智光山公園やサイボクハムのアスレチックなど。)	旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園は、防災、学習機能などの機能を備えた地域に開かれた市民の憩いの場となる公園として整備することとしています。いただいたご意見も踏まえ、今後、具体的な整備計画を検討してまいります。
45	新公園の整備	狭山市の入間川にこここテラスにおいては、遊具のすぐ近くにスターボックスが併設されている。このことにより、保護者は子供を遊具で遊ばせながらカフェのテラス席でコーヒーを飲むことができるので、それを求めて若い子育て世代が多く訪れている状況であった。カフェはスターボックスである必要がある。(若者の知名度や魅力が圧倒的であるため)	
46	新公園の整備	駐車場を設置してほしい(子連れで訪れるには必要)	

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
47	多世代交流拠点	ピオニーウォークやワカパウオークのような複合型商業施設が必要(1か所で複数の買い物が済ませられるため、利用者の行先の候補になりやすい)	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 本計画では、溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の民間施設は、周辺市にあるような人を呼び込む大規模商業施設ではなく、地区の暮らしに必要な機能を集約することで、多世代市民の利便性を高める民間施設を誘致し、将来に渡る持続可能な都市経営を図ることを考えています。
48	多世代交流拠点	保育所のような特定の人が利用できるものよりも、児童館のような誰でも自由に利用でき集まれるようなものがよい。	多世代交流拠点に設置する公共施設機能の一つには、子育て支援機能を想定しています。現状では子育てを共有できるような自由空間を設置したいと考えておりますが、機能の詳細は今後さらに検討してまいります。
49	公共施設	公共施設の出張所は遅くまで開けてほしい。(仕事帰りに寄れば、ついでで同施設内の商業施設の利用が見込める。(例、ワカパウオーク)	公共施設の機能、配置等が確定した後に、次段階の取組みとして施設の管理運営等について検討してまいります。
50	公共施設	図書館機能の追加(返却・要望圖書の受取などの小規模でも可(例:ワカパウオーク))	多世代交流拠点の公共施設は、地域交流センター等の複合型公共施設を想定しており、現状ではその中に子ども図書館機能の設置も検討しています。施設の詳細については今後さらに検討を進めてまいります。
51	その他	北坂戸駅の階段は改修の必要がある。西口はエスカレーターもなく階段の段差が不均一であるなど非常に使いづらいため、妊婦・乳幼児・高齢者が使いづらい。(まちの多世代利用の阻害要因になる)	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 ご意見の北坂戸駅の改修等については、東武鉄道線の判断や財政負担等の協議が必要であり、早期実施を目指す本計画案には位置づけておりませんが、今後のまちづくり課題として協議してまいりたいと存じます。
52	今後の進め方	数年前から、さびれた北坂戸駅前地区の再開発について漏れ聞こえてきたがきちんと市民に概要案を示されたのは初めて。既にイメージ案が作られていたが、その以前に坂戸市民だけではなく、広くコンペ形式で『多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくりの哲学を持ったプラン』の募集をし、【豊かな自然の残る坂戸の魅力】を反映したまちづくりプランが出されたら面白く特徴のある北坂戸地区再生になったのではないかな。	令和2年10月に「坂戸市北坂戸地区まちづくり推進事業基本計画(案)」を公表した以後、住民説明会を予定していましたが、コロナ禍のため開催を見送ることとし、UR都市機構等の関係機関との協議を進めながら、より具体的なまちづくりイメージを周知できるよう検討を進めてまいりました。 その結果、当時の計画案に時点修正を加え、事業名を「北坂戸地区まち・くらし再生事業基本計画(案)」に改め、事業目的を明確にすることとしました。本基本計画案は関係機関との事業連携の可能性、都市計画等の土地利用規制面の対応、地域課題の検証など行政的な側面から検討を加えたものであり、今回、計画案について市民皆様のご意見をうかがうために市民参加条例に基づく市民コメントを実施いたしました。 皆様のご意見を集約し、検討した上で必要な修正を加え、基本計画を決定することを明確にするよう、基本計画に示した今後のスケジュールを分かりやすく表記修正してまいります。
53	計画	溝端公園と北坂戸小学校(北坂戸公民館)の活用として北坂戸駅→多世代交流拠点→公園→その先の高麗川の堤防迄繋げる『賑わい軸』プランは面白い 多世代交流拠点として、市役所出張所、公民館、児童館、図書館、病院、ケア施設、カフェ、公園、清流高麗川が『軸』ラインで結ばれたら、夢のある北坂戸地区になりそう。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 計画の柱の一つは、朝夕の交通渋滞緩和のための右折帯設置とともに、駅から高麗川遊歩道に至る市道に健康歩道を整備することとしました。健康歩道とつながる健康回遊ネットワークは、既存の「環境学館いずみ」や「高麗川コミュニティパーク」、「浅羽ピオトープ」などをめぐる、高麗川遊歩道と連動した回廊を想定していますが、具体的なネットワークづくりは今後さらに検討してまいります。
54	計画	溝端公園を大駐車場にする案は、今世界的に叫ばれている環境法規制 SDGs 目標から考えると大問題。小回りの利く小型バスや乗り物の便を考えるべき。	本事業の実施にあたっては、SDGs(持続可能な開発目標)の理念を踏まえることが必要と考えており、今後、民間事業から事業提案を公募する際には、その理念をふまえて提案をいただく予定です。 多世代交流拠点の駐車場については、大規模小売店舗立地法等で定める規模を確保する必要がありますが、市民バスの運行ルート拠点に加えるなど、環境への配慮についても検討してまいります。
55	その他	坂戸市環境学館いずみボランティアスタッフが、坂戸にはこんなにステキな自然環境が残っていて多くの貴重な動植物があることを「坂戸の自然、川とともに」の冊子をまとめ、同時に『坂戸の自然まるわかり』のリーフレットを作った その豊かな自然を残す、県下の清流と言われる高麗川が近くに流れていることを坂戸市の財産とすべきだ。	健康歩道の整備については、北坂戸地区の貴重な財産である県下の清流と言われる高麗川を活かした健康づくりを目的として、「環境学館いずみ」や「高麗川コミュニティパーク」、「浅羽ピオトープ」などの既存施設や高麗川ふるさと遊歩道をめぐる健康回遊ネットワークが有効であると考え、本計画(案)に位置づけました。 具体的なネットワーク、アクセス誘導等については、今後さらに検討を進めてまいります。
56	今後の進め方	北坂戸駅から溝端公園、(旧)北坂戸小学校、高麗川堤までの、「賑わい軸」は、自然環境を重視、考慮した北坂戸の町づくりを考えてもらいたい。	
57	新公園の整備	新しい公園は、こどもも高齢者も障害があってもなくてもどんな人でも誰もが遊べる「インクルーシブ公園」を設置してほしい	本計画案では、旧北坂戸小学校用地は溝端公園に代わる都市公園として活用する計画であり、防災、学習機能を備えた多世代市民が自由に憩える、地域に開かれた公園として整備する予定です。 ご意見の「インクルーシブ公園」については、今後の公園整備計画作成の中で検討してまいります。
58	新公園の整備	公園の名称は「だれもが夢を語る公園」はどうだろう。	市民に親しまれる公園とするためには、名称を広く公募し、愛着を持っていただくことが有効と考えます。ご意見はその際の参考とさせていただきます。
59	賑わい軸の整備	「賑わい軸」の道はベビーカーや車いす(電動車椅子)が自在にすれ違い行き来できるように幅を広くし段差をなくするのは当然のこと。	賑わい軸の整備については、バリアフリー関連法令等をふまえ、市民が憩う場となるよう検討を進めてまいります。
60		「賑わい軸」の豊かな植栽、緑で囲む。(花のまち坂戸標語はどこへ行ったのか)	
61	その他	ユニバーサルデザイン考慮のベンチ、トイレの設置も考慮	まち・くらし再生事業では、ユニバーサルデザイン、インクルーシブ等に配慮した施設づくりを進めてまいります。
62	その他	計画案 P10 の左上部分で「1. 北坂戸地区のまちづくりについて」と「1」となっているのは、表紙にある目次で「7. 北坂戸地区のまちづくりについて」と「7」になっているので、「1」ではなく「7」ではないでしょうか。	当該部をご指摘のとおり修正しました。

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
63	その他	計画案 P9 で民間事業者による公的不動産活用の提案がどのようなものであったのかを提案類型1から3として整理しまとめています。続く P11 の整備方針①と P13 の整備方針②で、提案類型1が整備方針として採用されたことが分かります。しかし、3つの提案類型の中からなぜ提案類型1に決定されたのかが分からなかったため、その理由の記述が P9 と P10 の間あたりにあった方が良いのではないかと思います。	ご意見をふまえ、P9右下段「まとめ」の下に「提案類型1」を選択した理由の記述を追加しました。
64	歴史民俗資料館	(歴史民俗資料館について)現在坂戸市にお住まいの市民や他市町村からの観光客が、一周すると、およその坂戸市の歴史や地勢の特徴を理解できるよう展示を工夫する。	本計画案では、旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園は、地域に開かれた市民の憩いの広場にしたいと考えています。公園機能の一つに、多くの文化的資料を保有する歴史民俗資料館を公園用地に含まれる現北坂戸公民館に移転することで、市民学習機能を備えた新たな公園として整備してまいりたいと考えています。施設移転後の事業展開や管理運営方法等については、今後、市教育委員会と協議してまいりますので、ご理解をいただきたいと存じます。
65		(歴史民俗資料館について)坂戸市の著名な人物や文化遺産について、焦点を絞って解説するコーナーを設置してほしい。例えば「大川平三郎」「中島歌子」「鈴木嘉幸」「林信海」「井上淑蔭」	
66		(歴史民俗資料館について)音楽、ビデオ、絵画、実物などを利用して、視聴覚に訴える工夫もこらしてほしい。	
67		(歴史民俗資料館について)小学生が資料館で学習できるよう、学校教育との連携を図ってほしい。	
68		(歴史民俗資料館について)歴史や文化について定期的に講演会を開催できるよう場所を確保してほしい。	
69		(歴史民俗資料館について)ボランティアを大いに育て、活用してほしい。	
70		市内在住の個人が所有する貴重な歴史資料を保存して欲しい。	
71	発掘された土器等貴重な資料を保管できるよう、場所を確保してほしい。		
72	賑わい軸の整備	<p>私は、老化による身体機能への影響や中高齢者を対象に身体活動による健康効果について研究・教育活動を行っております。自宅近郊の環境は身体活動と強く関連することが国内外の研究から示されていることから、今回のまちづくり案の中でも「健康回遊ネットワーク形成」に対して大変興味を持ちました。</p> <p>計画案では、北坂戸駅から高麗川までの道路および一部のUR団地を囲う道路と高麗川の土手沿いを健康回遊ネットワークの対象と示されています。身体活動は、移動・家事・仕事・余暇活動の4つのドメインに分けることができますが、このような環境因子と関連するのは、主に余暇活動における身体活動と考えられています。余暇活動における身体活動を促進する環境因子として、これまでの研究では目的地へのアクセスの良さ・歩きやすい歩道・自動車レーンの有無・治安の良さ・景観などが重要であると示されています。そして、人が、どのような環境因子を重視するかは、その人の属性(性・年齢・居住形態・就労の有無・社会経済要因など)によって異なることが報告されています。</p> <p>今回、まちづくり事業の対象となる地域では、戸建て住宅・UR団地・UR団地以外の賃貸マンションなどがあり、子育て世代から高齢者まで住んでいます。今回のまちづくりの狙いは、高齢化が進む当該地域において子育て世代を中心に若年層の定住化を促進する環境づくりであると認識しております。しかし、今回の健康回遊ネットワーク形成を通じて、若年層の身体活動を促進する効果が期待できるかは疑問に思いました。私を含めて未就学児がいる家庭では、買い物や遊びには自宅から目的地まで自動車で移動をすることが多いと思います。UR団地の子育て世代の中には該当する道路を活用する方もいるとは思いますが、非常に少数ではないかと思います。特に、北坂戸駅東側の居住区の方は、多くの場合、多世代交流拠点や都市公園整備の場所まで自動車移動することが予想されることから、健康回遊ネットワーク形成の道路が有効活用されないのではないかと思います。</p> <p>また、高麗川沿いには、コミュニティーパークがあり授乳室があるなど子育て世代に配慮されている面もあります。しかし、今回のまちづくりの対象となるエリアの住民にとっては、高麗川沿いは、都市公園整備や多世代交流拠点の、さらに遠くの場所にあたります。上記の「目的地へのアクセス」の良さという面からすると、高麗川沿いまでの道のりを整備することで、健康効果を楽しめる若年層がいるのだろうかという疑問があります。現在、北坂戸近郊では、私を含めて農地転用をした土地を購入して戸建てに住む世帯が増えていると思います。子育て世代の一人としては、児童が安心して歩くことができる交通環境と高麗川沿いの環境整備を軸にいただき、環境づくりをすることが今回のまちづくり事業においてご検討いただければ幸いです。また、対象エリアの居住者を対象に(全戸は難しくとも無作為抽出として)、属性や活動エリア、移動手段などを把握する質問紙調査を実施し、対象エリアの環境に対する主観的な認識(歩くことを阻害する因子:閉店している店が多い通り、人通りが少ない、歩行者用の信号がない、歩道が狭いなど)を把握した上で、都市開発をすることも有用ではないかと思います。もし、機会が与えられるようでしたら、一住民としてだけでなく身体活動の研究者として、今回のまちづくりに貢献出来たらと考えております。ご検討いただけますと幸いです。</p>	<p>本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。</p> <p>計画の柱は、本市が保有する公共用地をまちづくりに活用することで、多世代交流拠点と都市公園を整備するとともに、地域課題となっている朝夕の交通渋滞緩和とあわせ、駅から高麗川遊歩道までの市道に健康歩道と右折帯を整備することとしています。</p> <p>ご意見をいただいた健康回遊ネットワーク形成については、現状では高麗川遊歩道沿いに整備された「環境学館いずみ」や「高麗川コミュニティパーク」、「浅羽ビオトープ」などの施設をめぐる、高麗川遊歩道との回廊づくりを想定していますが、具体的なネットワーク、アクセス誘導等については、今後さらに検討を進めてまいります。</p>
73	今後の進め方	<p>高齢化が著しいUR賃貸・北坂戸団地そのものとの関係性が言及されていない。大型商業施設などの立地によって、多世代交流が図られるとしている点は、他の自治体などでの失敗例(箱物行政)を踏まえた上で、住民や関係者、利用者の意見を吸収し、利用頻度が高い施設となるよう進めて欲しい。</p>	<p>本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。</p> <p>まち・くらし再生の検討においては、まちづくりに関する連携協定に基づき、UR都市機構と北坂戸地区の再生についての協議調整を進めてまいります。</p> <p>本計画案は、この協議を通して市有地を活用した多世代交流拠点等の先行整備が必要と判断した上で策定しており、引き続きUR都市機構等と連携しながら多様な施策を講じてまいりたいと考えています。</p> <p>いただいたご意見をふまえ、UR都市機構との事業連携等の考え方を本計画に示してまいります。</p>

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
74	今後の進め方	北坂戸地区の課題と対応方向性は、基本計画 5 ページに記載のとおり、住環境の維持・向上、高齢化対応、若年・子育て世代の定住に向けた駅周辺にふさわしい施設の配置など、北坂戸地区が「都市機能誘導区域」の実現に向けた課題は明らかである。これら課題の解決には、URとの協働事業が基本であり、また駅前であることから東武鉄道株式会社との連携を含めた”まちづくり”への対応が必要と考える。溝端公園、北坂戸小学校跡地の活用だけでなく、これら関係企業体を巻き込んで北坂戸駅前地区の活性化を図るべきではないか。この視点が、今回の基本計画には欠如しているのではないか。(関係企業体による推進組織の構築などが必要なのではないか?)	まち・くらし再生の検討においては、UR都市機構等との連携が必要不可欠であるため、まちづくりに関する連携協定に基づき、UR都市機構と北坂戸地区の再生について協議調整を進めています。 本計画案は、この協議を通して市有地を活用した多世代交流拠点等の先行整備が必要と判断した上で策定しており、引き続きUR都市機構等と連携しながら、北坂戸地区再生について協議を進め、多様な施策を講じてまいりたいと考えています。 引き続き、UR都市機構や東武鉄道(株)等との協議を重ねながら、地区の将来都市像の実現に向け取り組んでまいります。
75	計 画	今後想定される人口減少、更なる高齢化を踏まえた首都圏 50 km圏地域の方向性として、「コンパクトなまちづくり」を基本に”地域”の視点をより一層強く出すべきではないか。坂戸市は 9 月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行った。今後の急速な環境変化に対応すべく、この基本計画にも「地産地消エネルギー」「カーボンニュートラル」「地域危機管理対応」の視点を織り込むべきではないか。	「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」の実現に向け、北坂戸地区の良好な住環境形成につながる都市機能集約に取り組んでまいります。 ご意見の環境配慮の視点については、今後の多世代交流拠点の施設整備に向けた検討の中で、方向性を示してまいりたいと考えています
76	今後の進め方	城西大学等の地域と接点のある教育機関や諸団体など地域に関わる外部の視点も織り込み、”地域”＝当面は北坂戸駅前地区全体を考え、計画のコンセプトに織り込むべきではないか。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 計画は、溝端公園を活用して多世代交流拠点を整備すること等を柱としており、駅前地区の教育機関や諸団体などの外部視点の反映については、今後のまちづくりの検討課題としてまいります。
77	民間施設	駅の近くに家電量販店がないという話をよく聞くため、民間施設の一つとして家電量販店の誘致をする。	
78	民間施設	若者から高齢者まで幅広い層から関心を得られるのは「食」であると思う。喫茶店や洋食レストラン、ビアガーデン、ラーメンストリート等々、百貨店のレストラン街のように様々な「食」を楽しめる空間を作る。(または、期間限定のイベントスペースを作る等)	
79	多世代交流拠点	共働きの家庭が当たり前になってきている世の中のため、保育施設の不足も見受けられる。そのため公共施設には保育関係の施設を中心に置き、若い世代が住みやすい環境を目指す。	
80	その他	現在の図書館を北坂戸へ移設することで新施設へ誘導。現在の図書館跡地と図書館駐車場にマンションを建設。(デベロッパーへ売却) オルモも新施設へ移設。	
81	公共施設	坂戸市が運営する学習塾(一般の塾に通えない子供を対象とする。大学をステークホルダーとして安価で講師を依頼)上記と共に低所得世帯を対象とした「こども食堂」の運営。保育所・託児所	
82	民間施設	ショッピングモールの誘致(店舗誘致が無理であれば地元の企業へ募集)	
83	多世代交流拠点	小さい広場をつくり小イベントができる様にする。(フリーマーケットや動物の譲渡会の開催)	
84	民間施設	一般企業への募集。(地方の商店や地方のアンテナショップ)	
85	その他	道の駅みたいなもの	
86	民間施設	商業施設の誘致 多様な商品が揃う店舗を集めることによって、年齢性別問わず集客ができるような商業施設が駅の近くにできることで北坂戸周辺の活気が上がる。	
87	民間施設	健康施設スポーツや温浴施設など健康に特化した施設を作ることで高齢者に優しく、地域や世代間の交流が生まれることで住みやすい街づくりになる。	
88	民間施設	溝端公園跡地のモール構想 集客を考えると2階建てでスーパー・物販に加え、メディカルモールの併設。 ・ガスを使う施設 ・買い物もネットで出来る時代なので、体験型重視の施設がよい(飲食、ジム、サウナ、マッサージなど) ・一つの大きなテナントよりも複合的に使える商業施設がよい(様々なことが体験できるように) ・環境にも配慮された車が多くなったため、緑地は少なくてもよい ・公園は小規模でよい ・住宅地やAP、MSの建設	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 計画の柱は、溝端公園用地の活用による多世代交流拠点の形成で、拠点施設として地域交流センター等の複合型公共施設と商業系を主とする民間施設を配置し、生活に必要な機能を集約したいと考えています。 この拠点施設の整備については、今後、本市の要求する施設機能、規模等を備えた公共施設の建築受託を条件として、民間施設と一体となる拠点整備事業提案を公募し、北坂戸地区に最もふさわしい提案を選考した上で、事業者を決定する予定です。 提案者の公募にあたっては、公共施設案や民間施設に求める施設機能等を示す予定であり、今後、詳細検討を進める段階で、施設計画案を市民皆様に周知してまいります。
89	今後の進め方	現在、北坂戸地区は高齢化の一途を辿っているため、この施設を機に若者が住みよい街になるような店舗や施設選びをしていただければと思う。	
90	多世代交流拠点	子育ての為に施設はもちろんの事、アパレル店舗やアミューズメント施設など、これからの若者を中心に考え選定し、地域の平均年齢を下げるための足掛かりとなるものにして頂きたい。	
91	民間施設	商業施設 ・総合商業施設(イオン等) ・旧北坂戸小学校を使いカフェや飲食店、旧教室利用の宿泊施設(研修所)、道の駅(公園施設との複合) ・坂戸よさこい記念館	

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
92	多世代交流拠点	商業施設や、ショッピングモール等の若年層や子育て世代の人が集まる施設と、駐車場に多く面積を割いて、公的な施設は最低限でいいと思う。	
93	その他	駐輪場が少ない	
94	溝端公園用地の活用	公園跡地へ大型ショッピングモールの誘致・建設 ～生活にかかわるすべてが完結する施設をつくる～ *出張所を設置(車・自転車に乗れない方も生活しやすい) *小児・老人の預かり施設、クリニックを設置(安心) *雨天でも散歩ができるようなコースを設置(健康)(屋内運動場となると大げさなので、あくまでも散歩コース) 子供と高齢者に優しい街を造る→人が集まります。	
95	多世代交流拠点	多世代交流拠点の形成のために、特に商業施設、医療クリニック等の病院施設の誘致に力を入れていただき、若者・子育て世代・高齢者が集まる施設にして欲しい。	
96	その他	若者向けのリノベーションを推進していく(無印良品や IKEA とのコラボ等)	
97	その他	URをステークホルダーとして全面的な協力を得る。	<p>本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。</p> <p>北坂戸団地のストック再生等については、UR都市機構とのまちづくり連携協議において、多様な世代がいきいきと暮らし続けられる住まい・まちの実現を目指して検討しているとうかがっています。ご意見については、引き続きUR都市機構等と連携しながら北坂戸地区の再生に向けて協議調整をまいります。</p>
98	その他	駅前から現在の溝端公園までの公団の空き店舗は建て替えか改修を実施し綺麗な街並みをつくる。	
99	旧北坂戸小学校用地の活用	坂戸市民体育館が駅から遠いので、小学校跡地を体育館やテニスコート等を作る。立地が良ければ大会等開催しやすくなるのではないかと。	
100	新公園の整備	公園 野球場 アスレチック	旧北坂戸小学校用地は、多世代交流拠点に活用する溝端公園に代わる都市公園として整備することで、防災、学習などの機能を備えた市民の憩いの広場として、多くの皆様が自由に利用できる空間を確保したいと考えています。このため、球技等の専用施設は設置しない方針としています。
101	多世代交流拠点	駅に近い為、上層階は住居とする。(高齢者施設やマンション)	<p>本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。</p> <p>ご意見の住宅建設や若年層の居住誘導等については、まちづくりに関する連携協定に基づき、UR都市機構と北坂戸地区の再生について協議調整を進めています。</p> <p>地区の将来像を見すえた場合、北坂戸団地ストック再生の方針等を見極めたハード、ソフト両面からの定住促進が必要不可欠と考えますので、引き続きUR都市機構等と連携しながら北坂戸地区のまちづくりの方向性を検討してまいります。</p>
102	その他	戸建て住宅建設で若い世代を増やす。	
103	多世代交流拠点	防災拠点としての活用 溝端公園の公共施設に防災拠点としての機能を持たせる。(BCP対策としてのBOS対応GHP、非常用発電機の設置等)	
104	防災	危機管理対策 ・避難所整備 ・非常用発電設備(都市ガス・LPG)発電能力の高い発電機(緊急時、照明・給水ポンプ・空調を可能にする)またはコージェネレーション ・空調機は電気消費の少ない自立発電式ガス空調 ・再生エネルギー(太陽光発電)・・・PPA(イニシャルレス)広い駐車スペースへカーポート型太陽光パネル設置 ・井戸を掘る ・ヘリポート	<p>溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の公共施設には、これまで北坂戸公民館が担ってきた地域防災本部が移転する予定であり、民間施設については今後公募選考によって決定する民間事業者と災害時の一時避難場所提供等について協議してまいりたいと考えています。</p> <p>また、旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園は、旧校舎を一部転用することにより、災害時に地区自主防災組織の拠点として利用可能な地区集会所を兼ねた防災備蓄倉庫を併設することで、防災機能を備えた地域に開かれた特色ある公園となるよう計画検討をまいります。</p>
105	旧北坂戸小学校用地の活用	北坂戸小学校の跡地には、防災拠点施設(体育館等)を望む。	<p>本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。</p> <p>地区中央に位置する溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点には、生活に必要な機能を備えた民間施設と子育て支援機能を備えた複合型公共施設を設置する予定であり、この地で生まれ、この地で育ち、この地で暮らし続けたいと思っただけのまちづくりを今後も進めてまいります。</p>
106	多世代交流拠点	旧北坂戸小学校より駅に近い立地なので、大規模災害時の防災拠点施設になるような設備を整えていただき、周辺地域の住民が安心して暮らせる施設になって欲しい。	
107	その他	現状の北坂戸周辺は、若者やこれから家を建てたりする予定の人たちが、立ち寄り暮らししたりする町として選択肢に上がらない。	
108	今後の進め方	人口を増やす為若年層に狙いを絞った街づくりをした方がいい。	<p>本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。</p> <p>地区中央に位置する溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点には、生活に必要な機能を備えた民間施設と子育て支援機能を備えた複合型公共施設を設置する予定であり、この地で生まれ、この地で育ち、この地で暮らし続けたいと思っただけのまちづくりを今後も進めてまいります。</p>
109	計画	北坂戸地区の「立地する施設数は比較的多い」「生活サービス施設は充足している」とあるが、若年、子育て世帯に魅力は少なく常時利用する施設はほぼない。時々利用するような施設は適度にあって良いが、定期的に人が集まる施設(商業施設等)が必要と考える。 現状の施設では今後人口増にはつながらない。 既存の生活はある程度の確保は出来ても減少すると思われる。	

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
110	計 画	「良好な住宅団地の再生や、空き家や低未利用地等を有効活用することで、若年・子育て世代の定住促進を図る」とあるが、周辺の環境が整備されないと空家問題等に取り組んでも生活する候補地にも選択されないのではないかと。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。
111	今後の進め方	北坂戸駅周辺が特に暗いイメージがあるため、出来るだけ明るい街づくりをお願いしたい。 溝端公園だけでなく、北坂戸駅～溝端公園までも東武鉄道・公団・民間にも協力を頂き開発が必要だと思う。(駅から溝端公園まで直結できるように)	まち・くらし再生の検討においては、UR都市機構等との連携が必要不可欠であるため、まちづくりに関する連携協定に基づき、UR都市機構と北坂戸地区の再生について協議調整を進めています。 本計画案は、この協議を通して市有地を活用した多世代交流拠点等の先行整備が必要と判断した上で策定していますので、引き続きUR都市機構等と連携しながら、その後のまちづくりに向け多様な施策を講じてまいりたいと考えています。
112	多世代交流拠点	多世代交流拠点の形成と共に、公団住宅のリノベーション、戸建住宅の整備等、若者・子育て世代が居住しやすい住環境の整備を進めてほしい。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 北坂戸団地のストック再生等については、UR都市機構とのまちづくり連携協議において、多様な世代がいきいきと暮らし続けられる住まい・まちの実現を目指して検討しているとうかがっています。ご意見については、引き続きUR都市機構と連携しながら北坂戸地区の再生に向けて協議調整をしてまいります。
113	多世代交流拠点	溝端公園跡地の開発は、小学校跡地への公園移設が完了してから実施。(公園利用者多い為)	溝端公園用地を活用する多世代交流拠点整備事業については、新たな公園の開設時期をふまえ、公園利用者にとって支障が生じないように配慮してまいります。
114	賑わい軸の整備	健康ネットワークの拡大 高麗川右岸環境側帯～交流拠点の回遊ネットワークに環境学館いずみ等の公共施設も含めることでネットワークの拡大を図る。	本計画案では、本市が保有する公共用地をまちづくりに活用するとともに、駅から高麗川遊歩道につながる健康回遊ネットワークを形成する計画としています。健康ネットワークの拡大は、現状では「環境学館いずみ」や「高麗川コミュニティパーク」、「浅羽ビオトープ」などをめぐる高麗川ふるさと遊歩道との連携を想定していますが、具体的なネットワークについては今後さらに詳細検討を進めてまいります。
115	多世代交流拠点	SDGsを取り入れた提案	
116	そ の 他	高齢者は住み慣れた地域となっているのは実感する(公団・駅近・公園等)	
117	そ の 他	若者が少ない(若者が魅力を持つ要素が少ない)若葉駅は途中下車するが、北坂戸駅はしない(居住者・通勤者のみ)(飲食店、遊技場、ショッピングセンター)	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。
118	そ の 他	近隣では若葉駅周辺が「にぎわいのある街」に思える。 類似点:公団、自転車多い、高校、バス 相違点:若葉駅は、マンション多い、商業施設多い、交通量多い、工業団地、大学 若葉駅は坂戸市・鶴ヶ島市 北坂戸駅はほぼ坂戸市のみ	本事業によって、地区で暮らす多世代にわたる市民の生活の利便性が高まり、さらに次段階のまちづくりにつながるよう関係機関等とまちづくり連携協議を重ね、北坂戸地区のあるべき将来都市像実現に向けて引き続き取り組んでまいります。
119	計 画	北坂戸地区は高齢化が進み、寂れていますので立て直しが重要で 再生事業の計画が必要で、市の案は基本的には良いと思います。	今後も市民皆様にご理解、ご協力をいただける事業となるよう取り組んでまいります。
120	今後の進め方	医療・福祉施設や子育て支援施設も重要なこととは思いますが、その地区に住んでいる人々の福祉等では、活性化は見込めません。	本計画案の骨子は、①北坂戸地区のほぼ中央に位置する溝端公園を活用し、生活に必要な機能を集約すること、②旧北坂戸小学校用地を溝端公園に代わる地域に開かれた新たな公園とすること、③駅から高麗川遊歩道を結ぶ市道に健康歩道回廊を整備することであり、多世代の市民が地域交流を通して、暮らしやすくなったと感じていただけるよう取り組んでまいります。
121	民間施設	東松山のピオニーウォークのような外部から人が集まる大型の商業施設を作ることが重要です。 東松山・越生・毛呂山・鳩山・吉見・川島からも人が来るような施設の誘致が必要です。 そのような施設が出来れば、多くの人が集まり、さらに、そこで働く若い人が住むようになり地域が活性化します。 私も高齢者ですが、今住んでいる高齢者を重点的に考えているようでは発展は見込めません。	本市では少子高齢化が顕著な北坂戸地区のまち・くらし再生は急務であると受け止めており、可能な限り早期完成を目指してまいりたいと考えています。 また、溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点の民間施設については、周辺市にあるような人を呼び込む大規模商業施設ではなく、地区の暮らしに必要な機能を備えた地区市民の利便性を高める機能を有する施設を誘致したいと考えています。 この誘致にあたっては、複合型公共施設との連携もふまえた事業提案を公募し、地区の多世代交流拠点としてふさわしい提案を選考し、事業者を決定する予定です。
122	歴史民俗資料館	北坂戸小学校・公民館の活用についてですが、公民館に歴史民俗資料館を作るのでは狭すぎます。小学校の建物を利用して大きな施設にすべきです。歴史の資料は今後も増えていきますので、おざなりで作るのではなく大きくしっかりとしたものにするべきです。それが活性化にも役立ちます。	旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園については、既存校舎を活用した公園整備が可能となるよう検討した結果、用途地域や都市公園法等による土地利用制限があり、転用が許容される施設は極めて限定されることとなりました。 このため、本計画ではこれら法令等が許容する施設として、一部校舎を防災備蓄倉庫を兼ねた地区集会所として活用し、新たに公園用地に含まれる現北坂戸公民館については、多くの文化的資料を保有する歴史民俗資料館の移転先として活用することで、地域防災機能と学習機能を備えた地域に開かれた特色ある公園として整備してまいりたいと考えています。 歴史民俗資料館移転後の事業展開や施設の管理運営等については、今後、市教育委員会と協議してまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
123	旧北坂戸小学校用地の活用	防災の備蓄はもっと遠くの施設や北小の体育館で良いと思います。30年50年後を見据えて検討すべきです。公園は、河川敷も近くにありますが、そこに公園を作り、こんな便利なところに作る必要はありません。	本事業では、溝端公園用地を活用し多世代交流拠点を整備する計画です。そのため、廃止する溝端公園に代わる新たな公園を整備する必要があります。公園を廃止する場合、廃止する公園と同等規模の新たな公園を整備することが法令で求められており、現在未利用地となっている旧北坂戸小学校用地ならば、その規模を確保することができます。さらに、現溝端公園から300m離れた場所であり、引き続き北坂戸地区の方が利用するにあたり、通いやすさへの影響も最小限であると考えられます。これらのことから、新たな都市公園は、旧北坂戸小学校用地とする計画としました。 また、旧北坂戸小学校校舎等建物の活用にあたっては、法令等による各種の制限(建ぺい率、建物の用途・高さ等)をふまえ検討した結果、3階建て旧校舎を防災備蓄倉庫兼地区集会所に活用し、他の建物は解体撤去する方針といたしました。 都市公園には、災害発生時の一時避難場所としての機能もあることから、旧校舎を活用した防災備蓄倉庫を備えることで、地域防災力の向上にもつながるものと考えます。
124	計 画	基本計画(案)概要版2ページ 平成30年 Step1 このスタート時点から坂戸市の将来像を見据えた視点(市民、特に若い世代も含めた多様な意見)をくみ上げることが入っていません。開発ありき、の事業者意向のみ。今回、示された基本計画(案)が出来る前に「どんなまちづくりをしたいか」「どんな北坂戸であって欲しいか」市民の視点、意見もふまえた計画(案)であって欲しかったです。コンセプトの「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」そのものは理解できますが…。市民への説明や意見反映が遅すぎたのでは、と思います。	令和2年10月に「坂戸市北坂戸地区まちづくり推進事業基本計画(案)」を公表した以後、住民説明会を予定していましたが、コロナ禍のため開催を見送ることとし、UR都市機構等の関係機関との協議を進めながら、より具体的なまちづくりイメージを周知できるよう検討を進めてまいりました。 その結果、当時の計画案に時点修正を加え、事業名を「北坂戸地区まち・くらし再生事業基本計画(案)」に改め、事業目的を明確にすることとしました。本基本計画案は関係機関との事業連携の可能性、都市計画等の土地利用規制面の対応、地域課題の検証など行政的な側面から検討を加えたものであり、今回、計画案について市民皆様のご意見をうかがうために市民参加条例に基づく市民コメントを実施いたしました。 皆様のご意見を集約し、検討した上で必要な修正を加え、基本計画を決定することを明確にするよう、基本計画に示した今後のスケジュールを分かりやすく表記修正してまいります。
125	溝端公園用地の活用	溝端公園に駐車場は止めて欲しいです。 少子高齢化は止められません。(この課題は最優先のはず) 車社会への対応は違うと思います。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進する基本計画として位置付けています。 計画の柱は、溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点到地域交流センター等の複合型公共施設と民間商業系施設等を誘致することであり、この規模の施設を立地するためには関係法令によって一定基準を満たす駐車場の確保が必要となります。また、周辺地域からの来訪者や地域交流センター利用者等を勘案した場合、駐車場の確保は必要であると考えています。
126		公共施設(出張所・郵便局・銀行・子育て支援)これらは既存の施設の再整備で対応可能なのでは、と思います。	地区中央部に生活に必要な機能を集約することで、多世代市民にとって暮らしやすいまちづくりを進め考えています。ご意見の公共施設の機能をこの拠点施設に集約することで、さらに利便性が高まると考えていますので、ご理解をいただきたいと存じます。
127	民間施設	大型商業施設の誘致など、コンパクトなまちづくりからかけ離れていると思います。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 そのためには地域づくりを担う公共施設と日常生活を支える一定規模の商業系施設配置が必要と考えており、少子高齢化が急速に進行する北坂戸地区に対応するコンパクトなまちづくりが必要と考えています。
128	今後の進め方	子育て支援にもっと税金を使って頂きたい。今の若い世代が坂戸市で子どもを育てたいと思うような施策(自校式学校給食の充実・栄養士配属・調理員配置数・有機農産物導入促進・食器の充実他)北坂戸に限らず、坂戸市全体で子育てを支援するためのまちづくりを中心に考えて頂きたいです。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 多世代交流拠点の複合型公共施設に設置検討をしている子育て支援機能を含め、この地で生まれ育ち、この地で暮らし続けたいと思っていただけるようなまちづくりを目指し、取り組んでまいります。
129	計 画	溝端公園は市民が集う憩いの場として残し、その開発のお金を北坂戸小学校跡地の開発に充てて欲しいです。 耐震対策で課題のある校舎等は解体し、エレベーターを設置したコミュニティ・ランチルーム併設、地域の拠点とした開発に力を入れ、少子高齢化に対応して頂きたいです。 坂戸市学校給食を考える会が提案してきた「コミュニティ・ランチルーム構想」実現に向けた取り組みが出来たら、とつくづく思います。75歳、実現を見る事もなく「死ぬまで生きて行きます」が、無力な一市民の声、です。	本計画案では北坂戸地区のほぼ中央に位置する溝端公園を活用し、生活の利便性を高める多世代交流拠点を整備することとしています。 ご意見の旧北坂戸小学校用地の活用については、用途地域等による各種建築制限があり、既存校舎の転用、再築はこれら制限に見合う用途施設に限定されること、旧北坂戸小学校周辺の良好な住宅地の環境を保全する必要があること等を総合的に検討した結果、本市有地は溝端公園に代わる新たな公園としてまちづくりに活用することといたしました。
130	交 通	さかっちワゴンやさかっちバスのきめ細かい運用で高齢者、障がい者、車をもたない家族、市内の住民以外の方々にも北坂戸駅からの移動に便宜をはかれる施策をすすめて欲しいです。	溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点には、市民バスの運行ルート拠点を設置するなど、訪問者の新たな移動手段を確保するとともに、周辺地区の環境に配慮してまいります。
131	そ の 他	1974年頃の北坂戸駅前広場は中央に「盆踊り」の櫓、今の駅前駐車場には屋台が並び、多くの市民が集うにぎやかな「まち」でした。北坂戸小学校校庭で行われた「運動会」では、地区ごとに決められた場所のせきとりに早朝から駆け付けけるほど、活気があふれた「運動会」でした。 溝端公園グランドを利用して、溝端町・伊豆の山町・末広町・薬師町等々近隣の町内会・自治会を巻き込んだ「北坂戸地区・盆踊り大会」が出来たら、と思います。	当時のように活気ある北坂戸地区を再生するためのまちづくり方策を検討した結果、市有地を活用したまちづくりが必要と判断し、本計画案を作成しました。少子高齢化が顕著な北坂戸地区の中央部に集うことのできる多世代交流拠点を整備することで、まちと暮らし再生につながるよう取り組んでまいりたいと考えています。 多世代交流拠点の複合型公共施設は、地域の皆様と地域課題を考え、一緒に取組む地域交流センターを主施設とする予定であり、旧北坂戸小学校用地を活用して整備する都市公園についても地域づくりにご利用いただけるよう施設配置等の検討を進めてまいります。
132	今後の進め方	まちづくりは、10年、20年先を考えて市民と一緒に行政、事業者、老若男女、みんなで作り上げていくものだと思います。コロナ禍・ウクライナ侵攻等の為にいろいろな計画が変化せざるを得ない時代。 もう一回計画そのものを見直す時間をとっても決して遅くはないと思います。	本計画案は関係機関との事業連携の可能性、都市計画等の土地利用規制面の対応、地域課題の検証などについて行政的側面から検討を加えたものであり、今回、市民皆様からご意見をうかがうため市民参加条例に基づく市民コメントを実施しました。 多くの市民の皆様からいただいたご意見をふまえ、今後の事業実施にあたっては社会経済状況等を見極めながら、適切に取り組んでまいります。

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
133	溝端公園用地の活用	溝端公園の計画イメージパース(案)を観ると、中層の商業施設と公共施設の建築物を想定しているのでしょうか。でも、用途地域が第2種中高層住居専用地域、制限を超えた規模の事業展開を提案しているとあります。つまり、商業施設が1階、上階にマンション等の中高層住宅の提案なののでしょうか。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 計画の柱は溝端公園用地を活用することで、地域課題に対応する複合型公共施設と商業施設を主とする民間施設を配置した多世代交流拠点を整備し、生活に必要な機能を地区中央部に集約したいと考えています。 このため、この多世代交流拠点への住宅立地誘導は位置づけていませんので、ご理解をいただきたいと存じます。
134		建ぺい率60%は駐車場を考慮すると譲れない。容積率200%の緩和ですか？旧北坂戸小学校では中高層住宅建築は出来ない、民間事業者としては溝端公園に手を挙げるのは当然でしょう。北側斜線や日影規制制限も難なくクリア、利益を追求する民間なので当たり前です。	
135		計画イメージパースを観ると、駐車場は商業施設及び公共施設利用者で満車ですね。マンションの住人？の駐車スペースを確保出来るのでしょうか。	
136	交通	賑わい広場は、多世代交流拠点とされていますが、マンション入居者の拠点になりませんか？	多世代交流拠点整備にあたっては、周辺環境に配慮した交通対策を検討してまいります。
137	計画	車を持たない高齢者は確かに買い物に不便を感じています。 徒歩や自転車圏内の生活必需品商業施設は必要不可欠です。が、地域住民に誤解されないような計画を練って公表して頂きたい。民間事業者の提案などによって、建物計画は変更されますとありますが、民間指導の想定外大幅な変更は大丈夫か。	事業提案者の公募については、本市が望む民間施設機能と公共施設配置案を示して事業提案を公募する予定であり、本市の経費負担を含め最もふさわしい事業提案を選考し、事業者を決定してまいりますので、大幅な変更が生じることはないと考えています。
138	旧北坂戸小学校用地の活用	旧北坂戸小学校跡地は”物を大切の精神から”できるだけ既存建築物を利用することは出来ないのでしょうか。例えば、多種多様の学習塾や子供達が利用できるダンス教室、珠算、武道等の民間に貸し出し幅広い学びの場所にするなど。 大学の宿舎にリホームし賃貸。学生はアルバイトで民間学習塾で勉強を教える。一部を学生のシアターハウスとして活用する。介護サービス施設として民間利用等	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 本計画では、北坂戸地区のほぼ中央に位置する溝端公園に地区の利便性を高める多世代交流拠点を整備し、旧北坂戸小学校用地はこれに代わる新たな都市公園として整備することとしています。 この公園整備については、可能な範囲で既存校舎の有効活用を検討しましたが、用途地域等の各種建築制限があること、また、周辺の良い低層住宅地の環境に配慮する必要があること等を総合的に検討した結果、震災時の指定緊急避難場所となる公園の中に防災備蓄倉庫を兼ねた地区集会所を設置する必要があると判断し、そのための校舎転用とすることといたしました。 また、現北坂戸公民館を歴史民俗資料館の移転先として活用することで、新たな公園が防災機能と学習施設機能を併せ持つ、地域に開かれた特色ある公園として整備してまいりたいと考えています。
139		校庭は野球やサッカーのクラブチームの利用等も考えられます。災害時には避難場所利用等も考慮して公園の整備も必要です。	
140	今後の進め方	民間とは定期借地権契約になるのでしょうか。市民の財産の活用です。 民間事業者の提案と対等の専門知識と企画力慎重に業務遂行をお願いします。	多世代交流拠点用地として活用する溝端公園用地は、公募選考により決定した事業者に長期の定期借地権を設定する予定です。 これは土地を売却処分した場合には、事業経営状況により他者転売も可能となることから、地区拠点機能を長期間担保する必要があるため導入することとしました。ご意見のとおり市有地は市民の貴重な共有財産でありますので、今後も適正に管理してまいります。
141	計画 旧北坂戸小学校用地の活用	質疑応答では、出席者の殆どが、説明計画に対して、反対するような意見が大多数でした。自分も同じ考えです。公園には、現在必要な施設、環境が、全て整っています、何時も便利に利用している住民にとっては、不安、心配があるのでは、人が多く集まるようにとの説明でしたが、周辺の状況を、考えると、難しいのではと思われませんが、この際、公園は公園、学校は学校と別別に考え、計画されたら如何ですか、それには、現在ある、公園を、今以上によりよくするように、もっと力を注いでもらいたい、具体的には、施設、樹木、バックネット裏周辺を詳細に調べ、今以上に綺麗な公園に整備して貰いたい。特に、溝端公園交差点から、北坂戸駅西口に至る、公園側、歩道の汚れが、目立ちます。この先北坂戸駅までは、条件のちがいはありますが、何時見ても、綺麗になっています、何故でしょうか、将来溝端公園が坂戸市で、埼玉県で、関東で、日本中で、世界中で一番綺麗を、目指して、やってもらえればと、 北坂戸小学校の件、閉校になって、しばらく、経ちますが、尚の事、整備、整頓が必要では、ないですか、(コンクリートブロック、鋼材、ネットフェンス際の残材が目立ちます。いつも同じ時刻を指している大時計(故障?)時々何処かの建設業者(工事看板が見当たらない)が草刈をやっているようです、グラウンドには季節ごとに草が一杯、この草を上手く利用しては、如何でしょうか、今までは、何処もそうですが、草刈機械を使用していましたが この草を草食動物のエサとして、草刈り作業、騒音なし、刈った後の面倒な作業が一切なくなり環境にやさしい(SDGs)になります。試しに、ヤギ、羊 2,3 匹(頭)で、試してみても、若し、これが、上手くいけば、今までの作業携帯と、全く異なります。周りにはエサ場となる場所が(市内の公園、団地内、河川等)に多くあります、将来は頭数、種類を増やし、動物とのふれあい、乗馬体験、等が、 これにより、多くの人々がこの地を訪れるのでは、詳しいことは、上手く書けません。検討していただければ幸いです。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 溝端公園用地を活用して整備する多世代交流拠点には、地域交流センター等の複合型公共施設と商業施設を主とする民間施設を配置し、市民生活を支える機能を集約してまいりたいと考えています。 また、溝端公園に代わる公園を旧北坂戸小学校用地を活用して整備し、地域に開かれた特色ある公園として整備してまいりたいと考えています。 この地で育ち、これからもこの地で暮らし続けられる北坂戸地区となるよう、また、多世代市民にとってより暮らしやすいまちとなるよう取り組んでまいります。
142	計画	人口減少、高齢化への対応について市の取り組みについては大いに賛成するものです。 特に人口増加にどう取り組むか課題ですが若い人にどのようにして定住願うかが問題です。条件として都内交通の便、若い人が好む商業施設があるかどうか、福祉が充実しているかどうか、若い人が好む住宅があるかどうか、環境が良いかどうか等多数ありますが、メインは住まいの充実でしょう。特にUR住宅は劣化しておりとても無理、市だけの解決は困難であり、URまたは住宅メーカー等との協議によるマンション建設等の必要を感じます。 商業施設も大事なポイントです。坂戸に住みたいと思える街作りに PR も兼ねて取り組んでいただきたい。くれぐれも箱物作りだけで終わらぬ事を願いたいものです。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 ご意見の若年層の居住誘導や住宅建設等については、UR都市機構等との連携が必要不可欠であるため、まちづくりに関する連携協定に基づき、UR都市機構と北坂戸地区の再生についての協議調整を進めています。 この協議において、北坂戸団地のストック再生等については、多様な世代がいきいきと暮らし続けられる住まい・まちの実現を目指し検討しているとうかがっており、今後も魅力ある居住エリア創造に向け、引き続き連携しながら多様な施策を講じてまいります。

No.	分類	ご意見・ご提案	市の考え
143	計 画	11/8 出席しました。細かく案を出され流れがよく解りました。駅前が寂しすぎます。帰りが遅くなると、団地に着く迄、後を振り返り急ぎ足に。明るく賑やかになるといいです。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 この地区で暮らす方々が暮らしやすくなったと感じていただけるよう、皆様のご理解をいただきながらまちづくりに取り組んでまいります。
144	賑わい軸の整備	駅～遊歩道の話は、是非実現を	本計画案では北坂戸駅から高麗川遊歩道をつなぐ健康歩道整備と回廊づくりを計画しています。県下一の清流と言われる高麗川の豊かな自然環境をめぐる誰もが歩きたくするような回遊ネットワークづくりを進めてまいります。
145	公共施設	公民館の講堂を長い間使用させていただいています。8 日に質問したら使用できるという事でしたが、伊豆の山の仲間は取り壊すと聞いたとのことで心配しています。	現北坂戸公民館の機能は、溝端公園用地を活用して整備する複合型公共施設の中の地域交流センターに継承し、屋内軽体育等の機能を確保するよう施設計画を検討してまいります。
146	歴史民俗資料館	歴史民俗資料館について 整備方針(案)では、現公民館の跡地になっているが、下記の理由からより広い敷地をもつ、現北小跡地が適していると考えます。 ①現在の資料館規模では、既に収納は限界にきていること ②歴史民俗資料館は、考古・歴史・民俗の各資料の収集・保管をも担当する。考古資料・古文書・民具その他、各時代にわたる資料は膨大でその保存保管のためにはより広い場所が必要であること ③資料展示室やそれらの資料を活用するためのより広い空間が必要であること ④資料館を中心に大人も子供たちも学び遊べる施設・設備を設けることができること ⑤来場者のための駐車施設も必要 などなど	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 本計画は地区中央に位置する溝端公園用地については、生活の利便性を高める多世代交流拠点用地として活用し、旧北坂戸小学校用地はこれに代わる都市公園として活用することとしています。 この公園は地域に開かれた特色ある公園となるよう、用途地域等の各種建築制限や周辺の良い低層住宅地環境に配慮する必要性等を総合的に検討した結果、震災時の指定緊急避難場所になることをふまえ、地域と連携する防災備蓄倉庫を兼ねた地区集会所を一部校舎を転用して設置し、新たに公園用地に含まれる現北坂戸公民館に歴史民俗資料館を移転することで、地域防災機能と学習機能を併せ持つ公園として整備する計画としました。
147	旧北坂戸小学校用地の活用	防災備蓄倉庫や地区集会所は必ずしも(案)の位置・場所でなくとも他に用地があるのではないかと	歴史民俗資料館移転後の事業展開や施設の管理運営等については、今後、市教育委員会と協議してまいりますので、ご理解をいただきたいと存じます。
148		将来を見据えた整備計画であれば、当地(北坂戸小学校用地)は他に児童館等を併設するなど、文教エリアとしての特色を持たせた方が良くと思う。	
149	防 災	・避難所としての公共施設 ハザードマップを見ると河川の氾濫時においては、3mから 4mの水位が上がるので、北坂戸団地の 1 階は完全に水没する。ハザードマップでは、溝端町・伊豆の山町の人は坂戸ろう学校や千代田小学校まで避難しなければならないが、足腰の不自由な人や老人は逃げ切れるものではない。(車を持っていない人が多くいる) 避難所として 4 階以上の公共施設が絶対に必要である。現在の用途地域では、不可能との話であったが、ネットで検索すると「用途地域の決定権は、殆どが市町村となっております。ましてや災害時の避難所との理由があれば市町村が用途地域を決定または変更する際に都市計画法第 19 条第 3 項に基づき都道府県と協議する。」とあるので可能であるはずだ。是非お願いします。 例えば、公共施設は、1 階は市役所の出張所、2 階を公民館、3 階を図書館、4 階を多目的ホールなど。	ご意見の水害時の公共施設の避難場所については、北坂戸地区は、浸水深の想定が3m未満となっていることから、本市地域防災計画では、桜小学校と桜中学校、旧北坂戸小学校の2階以上を水害時の一時的な避難場所として位置づけております。高さ 10mを超える4階建て校舎については、現在の用途地域内では高さの制限により建築できませんが、学校施設であることから特例許可を受け建築されたものです。しかしながら、北坂戸小学校の廃校により、学校施設ではなくなったことから、現在は既存不適格の状態となります。ご意見の用途地域の変更については、現在の用途地域が周辺の低層住宅の良好な環境を保全するために定められた地域であることから、引き続きその環境を維持していく必要があると考えており、規制を緩和することで良好な住環境の保全が難しくなる用途地域への変更は行わない方針としました。 これにより、旧校舎の活用については、現状の規制でも可能な防災備蓄倉庫兼地区集会所として3階建て校舎を転用し、他の校舎等は解体撤去する方針といたしました。
150	民間施設	若い人が寄り付き住み続ける街として生活全般の広範囲でカバーしているショッピングモールを誘致してほしい(ファッション性のある衣類店など)	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 本計画では、北坂戸地区のほぼ中央に位置する溝端公園を活用して、生活の利便性を高める多世代交流拠点を整備することで、生活に必要な民間商業施設と複合型公共施設を配置する計画としています。 ご意見の民間施設については、今後、民間事業者から事業提案を公募し、北坂戸地区に最もふさわしい提案を選考のうえ決定したいと考えていますので、施設の詳細は現段階では未定です。
151	溝端公園用地の活用	若い人や老人のためにテニスコートとゲートボール場くらいは残して欲しい	本計画案では、旧北坂戸小学校用地は溝端公園に代わる都市公園として活用する計画であり、防災、学習機能を備えた多世代市民が自由に憩える、地域に開かれた公園として整備したいと考えています。このため、球技等の専用施設は設置しない方針でありますので、ご理解をいただきたいと存じます。
152	新公園の整備	公園で少年達がキャッチボールくらいできる場所を設定してほしい。	なお、公園利用者に危険を及ぼさない程度の軽易な行為については、許容されるものと考えています。
153	民間施設	今は車があり、いろいろなところへ買物に行かれますが、北坂戸駅から歩いて行かれる範囲に「ホームセンター」がないので、商業施設をぜひ誘致してください。	本計画案は、少子高齢化が顕著な北坂戸地区の「まち・くらし再生」を目的として、市有地を活用して暮らしに必要な諸機能を地区中央部に集約することにより「多世代が暮らし続けられるコンパクトなまちづくり」を推進するための基本計画として位置付けています。 本計画では、北坂戸地区のほぼ中央に位置する溝端公園を活用することで、生活の利便性を高める多世代交流拠点を整備し、必要な民間商業施設と複合型公共施設を配置する計画としています。 この民間施設については、今後、民間事業者から事業提案を公募し、北坂戸地区に最もふさわしい提案を選考のうえ決定してまいりますので、立地施設の詳細は現段階では未定です。
154		100 円ショップは駅前の「サンディ」に「ワッツ」が入っているので、1 つあれば充分だと思います。	
155		10 年以上前に駅前に「本屋」がありましたが、閉店してしまったので、誘致してください。	
156	溝端公園用地の活用	再生事業基本計画(案)概要5ページ 溝端公園のイメージ図に「既存樹木の活用」とあり、駐車場のまわりに木があり、樹木が多いと「ハト」「ムクドリ」が来て洗車後に、商業施設に言ってフロントガラス、ボンネットが汚れたりすると苦情が来ると思います。私のイメージでは、ワカバウォーク、ピオニーウォーク、西友(東松山)、シルビア(東松山)駐車場のまわりに樹木はほとんどないと思います。	公共用地の緑化については、環境配慮の観点から必要な取組みであると考えています。今後の溝端公園を活用する事業提案の公募の際には、現公園の緑地を可能な範囲で活用することを求め、北坂戸地区に最もふさわしい提案を選考のうえ決定する予定です。